

2025 年度 事業報告

1 事業概要

当法人の目的は、産業・芸術・学術・行政の様々な分野・領域の垣根をこえ、それぞれの多様な見方・価値観を融合し、既存の見方や思考ではとらえきれない課題に気づき、解決を通じて新たな価値を生み出す『基盤（場）』を構築すること、また新たな価値観を創造できる人材の育成や研究も支援し、構築した基盤を未来につなげることである。さらに構築した基盤は将来的に日本のみならずグローバルに拡大し、認知を高めて、政策・施策提言もできる新しい“産芸学官”連携の形として、世界の諸問題に解決策を提供できる枠組みにすることを目指している。

この目的達成に向けて、2025 年 8 月 1 日（金）、本法人は東京大学先端科学技術研究センター（以下「東大先端研」）との間で、価値創造基盤の構築に向けた協定を締結し、領域と世代を超えた対話による価値創造の場として「円融の集い場」を共同で創設することとした。そして 10 月 11 日から 13 日に渡り、高野山金剛峯寺において「高野山〈円融の集い場〉」を開催し、本法人会員、東京大学関係者と高校生から 30 才未満の青少年総勢約 70 名が学びと対話をスタートさせた。

その後、東大先端研キャンパスや東京日本橋を会場とし、様々な分野の専門家を集め、社会問題を領域横断的に議論する「産芸学官 円融の対話」、公募で集まった高校生から 30 才未満の次世代を STEAM（Science, Technology, Engineering, Arts, Mathematics）型教育で育てる「青少年高野山会議」を並行して展開し、現在も進行している。いずれの取組みも、多様な価値観を尊重し、討論ではなく対話を通して価値観を融合する場としており、「産芸学官 円融の対話」では、実業界・学界だけでなく芸術領域から登壇者を招いて、多様な視点での議論を行っている。また「青少年高野山会議」では、普通科、芸術科、さらには社会人からも 44 名の参加者を受入れ、知性だけでなく感性に触れるプログラムを行うほか、参加者による議論の場を重視している。

「産芸学官 円融の対話」は、11 月以降 2 か月おきに開催しており、会員のほか一般の聴講者にも公開している。「青少年高野山会議」は、概ね各月 2 回程度のプログラムを実施し、参加青少年のほか会員も聴講・参加している。「青少年高野山会議」では、2026 年 8 月に高野山で開催する「高野山会議」で最終発表を行い、現在の参加者は一連のプログラムを終了する。その後、新たな参加者を募り、2026 年度のプログラムを開始する。

2 実施事業

東大先端研と共同で「円融の集い場」を企画し、実施。

「円融の集い場」は、社会問題をシンポジウム形式で議論する「産芸学官 円融の対話」、次世代教育を行う「青少年高野山会議」、そして総括会議として高野山にて開催する「高野山〈円湯の集い場〉」で構成される。

なお、「高野山〈円融の集い場〉」は、2026年度から「高野山会議」と名称を改める。

2.1 高野山〈円融の集い場〉

10月11日にダイワハウスグループが運営するみらい価値共創センター「コトクリエ」に青少年高野山会議参加者が集合し、開会式とオリエンテーション、「自利利他とは」をテーマに座談を実施。

翌12日、青少年高野山会議参加者は高野山に移動、午後に会員や東京大学関係者も高野山に集合・合流して入山参拝式を開催。講話や演奏を聴き、「自利利他の世界と未来」について、会員と青少年高野山会議参加者が車座になって議論を展開。

最終日13日には、全員で高野山奥之院を歩くなど歴史と文化にも触れながら、杉山正和東大先端研所長／教授のファシリテートで「自利利他の世界に向けて～社会的価値を創造し続けるには」をテーマにシンポジウム形式で議論する「産芸学官 円融の対話」によって3日間を締めくくるとともに、〈円融の集い場〉の満ちた矢となった。

10月11日	■ 青少年高野山会議開会式 ■ セッション「青少年高野山会議とは」、「東京大学先端研とは」 ■ インプロヴィゼーション ■ 座談「自利利他とは」
10月12日	■ 丹生都比売神社見学 ■ 高野山霊宝館見学 (会員、東大先端研関係者が合流) ■ 総序「〈円融の集い場〉とは～青少年高野山会議と産芸学官円融の対話」 ■ 高野山壇上伽藍を歩く ■ 高野山〈円融の集い場〉開会式・入山参拝式 ■ 室内楽演奏 シューベルト弦楽五重奏曲ハ長調 ■ 講話「空海と利他」 ■ 特別講話・座談「自利利他の世界と未来」
10月13日	■ セッション「Nature-Centered への視座の転回」 ■ 奥之院を歩く ■ 産芸学官 円融の対話「自利利他の世界に向けて～社会的価値を創造し続けるには」 ■ 閉会

2.2 産芸学官 円融の対話

高野山〈円融の集い場〉以降、2回開催。会場参加・オンライン参加のハイブリッド形式で行っている。

東京での開催のスタートとなる11月26日開催回においては、円融の集い場が重視する知性と感性の融合を体感する実験として、対話に続いて芸術に触れるプログラム（コンサート）を加えた。

● 11月26日開催（東大先端研 駒場Ⅱキャンパス）

テーマ「Why war? ひととはなぜ戦争をするのか？」

第1部の対話に続き、冷戦下のソビエトにおいて、体制と向き合って芸術活動をつづけたショスタコービチの作品を鑑賞。

第1部 対話（シンポジウム）

小泉 英明（東大先端研フェロー）

宗國 修治（Head of JERA Global Institute）

小泉 悠（東大先端研准教授）

伊藤 恵理（東大先端研教授）

岸 ふみ（東大先端研 AEO アフィリエイト／東京大学社会心理学専修過程）

ファシリテート 杉山 正和（東大先端研所長／教授）

第2部 コンサート

ショスタコービチ ヴァイオリンソナタ

ヴァイオリン 荒井 英治（日本センチュリー交響楽団及び名古屋フィルハーモニー交響楽団首席客演コンサートマスター／東京シティフィルハーモニック管弦楽団特別客演コンサートマスター／東京音楽大学教授）

ピアノ 松本 望（国立音楽大学及び洗足学園音楽大学各非常勤講師）

● 2026年2月5日開催（日本橋高島屋三井ビル Conference Room）

テーマ「個人とコミュニティはどうつながっていくか～変容する関係性をめぐる対話」

高市 邦仁（株式会社三井住友銀行 社会的価値創造推進部長）

中島 隆博（東洋文化研究所 所長／教授）

木村 正明（東大先端研特任教授、J1 ファジアーノ岡山オーナー）

杉田 尚子（株式会社アクアイグニス新規事業ディレクター）

近藤 薫（東大先端研教授、東京フィルハーモニー交響楽団コンサートマスター）

ファシリテート 杉山 正和（東大先端研所長／教授）

2.3 青少年高野山会議

11月から2026年8月の高野山会議での成果発表にむけ、大きく3節に分けプログラムを実施。それぞれの節は、各分野の第一人者から講義を受けて知性を高める【Academic（セミナー）】、芸術家と対話しながらその作品を体感して感性を育む【Art】、そして学んだことを振り返りながら、参加者で議論し発表する【Harmony】で構成される。

各説の基本主題は、第1節が人を取りまく社会事象を取りあげる「【衣食住】～外的世界～を見渡す」、第2節は人自身をみつめる「【心技体】～内的世界～を見つめる」、そして第3節は人を含むこの世界全体を考える「【円融無碍】1200年後の世界」で、8月の高野山会議での総括発表にむけて学びを進めている。2026年3月までに第2節がほぼ終了。

2.3.1 第1節 「【衣食住】～外的世界～を見渡す」

【Academic】

● 11月2日開催（東大先端研 駒場Ⅱキャンパス）

序説 世界でなにが起きているか

吉田哲臣（当法人代表理事、株式会社 JERA 企業価値創造担当理事）

講義1 文化「対話型芸術鑑賞 ～ 音を見る、形を聴く。」

新井 鷗子（東大先端研客員教授、横浜みなとみらいホール館長）

講義2 和食学「和食学の初歩」

土井 善晴（料理研究家、「おいしいもの研究所」代表、十文字学園女子大学副学長、甲子園大学客員教授、学習院女子大学講師、東大先端研上級客員研究員、多摩美術大学教授）

● 11月15日開催（東大先端研 駒場Ⅱキャンパス）

講義 環境問題「顕在化する地球温暖化と異常気象：今何が起きているのか？」

中村 尚（東大先端研 シニアリサーチフェロー）

● 12月13日開催（高野山東京別院・高輪）

講義1 エネルギー「持続可能エネルギーシステム～科学から見た実現への道筋～」
「エネルギーが直面する課題」

杉山 正和（東大先端研所長／教授）

多和 淳也（株式会社 JERA 副社長執行役員 Chief Strategy Officer）

講義2 戦争「人間はなぜ戦争をするのか」

池内 恵（東大先端研教授）

小泉 悠（東大先端研准教授）

【Art】

- 11 月 15 日開催（東大先端研 駒場Ⅱ キャンパス）
合唱・歌う
小森 輝彦（東京音楽大学教授、ドイツ宮廷歌手）
- 11 月 17 日開催（東大先端研 駒場Ⅱ キャンパス）
世界的指揮者との対話
山田 和樹（バーミンガム市交響楽団音楽監督、東大先端研特別教授）
- 12 月 8 日から 10 日開催（東大先端研 駒場Ⅱ キャンパス）
国際的ヴァイオリニストとの対話Ⅰ
堀米ゆず子

【Harmony】

- 2026 年 1 月 24 日開催（日本橋高島屋三井ビル 株式会社 JERA 会議室）
第 1 節の振り返り
インプロヴィゼーション
座談 テーマ「Why war? ひとはなぜ戦争をするのか？」

2.3.2 第 2 節 「【衣食住】～外的世界～を見渡す」

【Academic】

- 2026 年 2 月 11 日開催（東大先端研 駒場Ⅱ キャンパス）
講義 1 ロボティックス「AI 時代の身体性」
稲見 昌彦（東京大学 総長特任補佐、東大先端科学技術研究センター 副所長／教授）
講義 2 身体表現「“踊る”ということーからだで世界に触れるー」
米沢 唯（新国立劇場バレエ団 プリンシパル）
- 3 月 15 日開催（高野山東京別院・高輪）
講義 1 脳科学「脳科学から観た自然・人間・AI」
小泉 英明（東大先端研フェロー）
講義 2 AI「フィジカル AI の現状とこれから」
原田 達也（東大先端研教授、理化学研究所 革新知能統合研究センター チームディレクタ、国立情報学研究所 医療ビッグデータ研究センター 副センター長）

- 3月30日開催（川崎火力発電所）
発電所見学 大規模ガス火力発電所を見学

【Art】

- 2026年2月22日開催（東大先端研 駒場Ⅱキャンパス）
カラダとコトバ
「能に見る日本の心」
金剛 龍謹（能楽金剛流若宗家）
「歌唱表現をより豊かなものにするための呼吸」
小森 輝彦（東京音楽大学教授、ドイツ宮廷歌手）
- 3月14日開催（東大先端研 駒場Ⅱキャンパス）
総合芸術 文学×映画×音楽×コンテンポラリーダンス
「マーラー《交響曲第5番》第4楽章『アダージェット』をめぐる」
小宮 正安（ドイツ文学者、音楽評論家）
米沢 唯（新国立劇場バレエ団 プリンシパル）
近藤 薫（東大先端研教授、東京フィルハーモニー交響楽団コンサートマスター）
- 3月30日から4月1日開催（東大先端研 駒場Ⅱキャンパス）
国際的ヴァイオリニストとの対話Ⅱ
堀米ゆず子

【Harmony】

- 2026年4月5日開催（日本橋高島屋三井ビル 株式会社 JERA 会議室）
第2節の振り返り
インプロヴィゼーション
座談 テーマ「芸術とはなにか？」

この後、第3節を経て、8月の高野山会議での総括発表にむけたまとめを行う。

3 法人経営

3.1 運営

3.1.1 社員総会

- 7月17日14時～14時30分開催（当法人執務室）

議事：

- 報告事項1 事業計画および予算
- 第1号議案 役員報酬規程
- 第2号議案 理事選任

- 2026年2月5日17時15分～17時30分開催（当法人執務室）

議事：

- 第一号議案 個人会員の設定

3.1.2 理事会

- 7月17日13時00～14時（当法人執務室）

議事：

- 第1号議案 社員総会への付議（付議事項：役員報酬規程）
- 第2号議案 各規程の制定
- 第3号議案 基金募集
- 第4号議案 東大先端研との協定締結
- 第5号議案 設立時社員が定めた事業計画および予算の承認
- 第6号議案 ホームページ制作のための業務委託契約締結
- 第7号議案 会計・税務の業務委託契約締結
- 第8号議案 共創会員の入会手続
- 第9号議案 備品等の購入・契約
- 第10号議案 社員総会の招集

- 12月11日13時～14時（オンライン開催）

議事：

- 報告事項1 会員専用ページの制作
- 報告事項2 会員の状況
- 報告事項3 会議体の発展・拡大にむけて

● 2026 年 1 月 29 日（書面開催による決議の省略）

議事：

第 1 号議案 「個人会員」の設定及びそれに伴う会員・会費規程の改訂の件

第 2 号議案 社員総会への付議（事項 1 の承認）の件

第 3 号議案 総会の招集の件

3.2 会員の状況

2026 年 3 月 31 日時点での会員は、以下の通り。

正会員 株式会社 JERA、株式会社三井住友銀行

特別会員 有限責任あずさ監査法人

共創会員 アビームコンサルティング株式会社、エルエヌジージャパン株式会社、
株式会電通、日本郵船株式会社

3.3 事務局の状況

2026 年 3 月 31 日現在、理事は 4 名。職員は採用していないが、正会員（社員）の協力を得て、常勤の代表理事が当法人の運営を担っている。

3.4 対処すべき課題

設立初年度で活動を開始したばかりではあるが、大きな問題なく法人運営を進めることができ、また、「円融の集い場」を開始・展開することができている。しかし、未来に向けて社会的価値の追求を進めるため、法人運営をより安定的に遂行できる体制を構築するとともに、「円融の集い場」の発展にむけ、以下の課題に取り組む。

➤ 法人運営の頑健化

安定的な財政面、要員面での体制を構築する。

➤ 「円融の集い場」のプログラムや内容の拡充

社会課題に相對する場として、社会の情勢、そして参加者や有識者の意見も踏まえながら、東大先端研と協力してプログラムやセッション内容をより必要かつ魅力的なものに拡充する。

➤ 「円融の集い場」の取り組みや成果の発信と賛同者の拡大

会員はもとより社会に向けて取り組みの成果や提言を発信し、認知度を高めるとともに賛同者を広げる。そして当法人を支え、ともに社会的価値の創造にむけて取り組む共創会員の増加につなげる。